

## 2月に向けて

代表取締役 三田雅憲

令和4年の正月は、再び新型コロナの大流行で始まりました。大阪も千葉も、現在「まん延防止等重点措置」が実施されています。不要不急の外出の制限や、飲食店への営業時間の短縮や、人数制限などの自粛要請が始まっています。

そういう中で1月26日、27日の両日、大阪難波エディオンアリーナで大阪商工会議所主催の「ビジネスチャンス発掘フェア2022」が開催されます。見本市は、当社の商材やお客様の考え方など又、他社の動向を見る上で非常に役に立つのです。又、見本市で知り合い、大きなビジネスに繋がったお客様も何社もおられます。こういった一期一会の出会いの為に当社の展示ブースに覗かれたお客様には、一生懸命の接客が必要なので、新型コロナが終息したら関東でも再び見本市に出展し、自社PRを再開していきたく考えていますので関係各位はよろしくお祈りします。

しかし、この時期に見本市というのもリスクが高いので十分気を付けて行きたいと思います。

本月は、今期4月以降特に仕事が増加するであろうところから若手に送る野村克也監督の言葉を紹介したいのと、その若手を指導する先輩に送る言葉を2020年の7月号に続きご紹介して一緒に勉強したいと思います。

### （若手社員へ）人間たるゆえん

「これまで数えきれないほどの人に出会う機会を得たが、伸びる人間には年齢を問わず共通点があります。それは感性（物事を心に深く感じ取る働き。外界からの刺激を受け止める感覚的能力）が鋭く、明確な問題意識や目標を持ち、努力することをいとわない点である。自分が何のために生きているのかに自覚的で、自分が生かされていることに対する感謝の念を忘れない人間である。感謝こそが人間の人間たるゆえんかもしれない。」

とされています。又、一方で

「どんな時にも感謝の気持ちを持って臨めば、物事はきつとうまくいく」

とされています。孤独な勝負師のイメージの強い野村さんですが、根底にはこのような気持ちで仕事をされていたと考えると改めてイメージが変わります。

又、私ども年長者やベテラン（先輩）に対しては、次のようにも話しておられます。

### 万物の基

「最近若い人に良く思われようと思っているのか、あえて苦言を言う年輩の人が少なくなったように感じる。昔は、どの町内にもそんな老人がいたもんだ。口やかましいが言っていることは真っ当で、なるほどそうかと思わせるものがあつた。今は若者に対して必要以上に気を使ったり、ゴマをすったりする人が多いのではないだろうか？若い人を説得する前提となるものは、やはり信頼関係である。

「信は万物の基をなす」という言葉があるが、信頼関係がなければどんな言葉も相手の心に響かない。それゆえ先輩がまず取り組まなくてはならないのは、いかに信頼関係を築いていくかということである。信頼とは「この人の言うことを聞いていけば間違いない」「この人についていけば大丈夫だ」と思わせることである。こういう関係は日頃の積み重ねしかない。そこにいるだけで周囲の若い人々に生きる力を与え、人生の指針となるような存在が望まれる先輩像と言えるだろう。そしてさらに言えば「若者に対しての愛情が無くては、信頼は築けない。」

と述べておられます。特に当社には、若手が技術力を向上させて仕事をしていてもらいたいと本心で願っている先輩が多い会社ですので、そのような関係を築いていてもらい生産性が高く、技術力も良く、社員が愛和して大家族主義でいける会社になっていきたいと思います。